

平成二十五年一月二十一日

折角勉強したる英語を忘るるは口惜しと思ひ、近頃、英語ペーパーバック小説を努めて讀む。語學力なほ乏しくして讀み難きは如何ともせざれど、別に難點あり。本に登場する人の名、これなり。

抑、彼等は日常、同一人を數多の異なる言ひ方にて呼ぶ。姓、及び名前に加へて通稱名（ニックネーム）あり。本名を推量し難き通稱名、時に我を混亂せしむ。サミュエルをサム又はサミーとなすは良し。ウイリアムをウイルと呼ぶまた不思議にあらねど、ビルを以てウイリアムの通稱となすは想像を超ゆ。ロバートをディックと呼ぶも理解できず。更に彼等は、キューティ（可愛い子ちゃん）、ヤングマン（若造）等、普通名詞で人を呼ぶこと珍しからず。而て、これ小説内の臺詞に頻發し、更には地の文にも使用せらる。故に、種々の異なる呼稱にて表現せらるる同一人物を、我は呼稱毎に各各別人と信じて讀進み、書物終盤に至りてそれら皆同じ人と知り愕然となること一再ならず。

是即ち、作者が意圖せる筋とは全て別なる話を我腦中に組立てながら讀進みしことに他ならず。話の流れに矛盾ありと感じ、え合點せざりき個所ある因をここにて知る。されど、別の呼稱にて表されし者、呼稱のみならず眞に別人たりせば、この話更に興趣あるものと思ふこともあり。

さる小説の登場者、ニックネームで示され、次に「彼」とも言はる。その「彼」、喜び尾を振る箇所に至り、人ならずして犬なりけるを初めてを知る。これ作者のトリックならざれば、前の章までに犬なること説明せらるべし。それを讀落とす我語學レベルこそ悲しけれ。

さるほどに、學習効果を得、讀書中、作者が登場人物の呼び方を變ふる都度、その姓名、ニックネーム、他の登場人物との相關關係を、我流にていちいち裏表紙に走り書く慣ひ身につけたり。これ、筋を混亂なく理解する一助にして頗る有效なり。

さて、かつては購ふに高價なりし海外書籍、今やアマゾン社にて現地價格同等にて買ふを得。加之、アマゾンに依らば、諸國にて販賣する廉價古本の入手も可なり。いづれ讀捨てのペーパーバック、豫期に反して面白からざるもの、英語言ひ廻し難澁に過るもの、讀了前にも廢棄するを旨とす。價格安ければ捨つる決斷し易し。多少の汚れあらば實に百圓を下回る價格設定もあり。海外よりの送料二百五十圓別に支拂ふと言へども、その廉價なること、注文簡便なること舊を思へば革命的と言ふべし。

ある時、登場人物無闇に多きを以て知らるる米國作家の書、アマゾンに注文せり。不日、讀み古されし一冊カナダより届きぬ。例により登場人物につきてメモせむと裏表紙を開く。と、ここに前所有者の手になるボールペン走り書き既にあり。その筆跡、英語を母國語とする者になること歴然たり。判讀するに登場人物が氏名、ニックネーム、職業、特徴、他の登場者との相關關係と見ゆ。母國語にて讀む人も我と同様のメモ必要とし、同様に書きつるを見、思はず微笑む。